

60雀の現況ご報告

60雀事務局担当 鹿島 遼一

まず、日頃60歳超のメンバーと共に楽しんでもくれる若いメンバーの皆様に感謝します。また、現在の千葉60雀サッカーを育て頂いた、ライバルにして師匠の四十雀クラブ東京のご同輩の方々にも謝意と大いなる敬意を表したいと存じます。

60雀は、兼松Gの芝生で四十雀クラブ東京の60雀との練習マッチを、恒例のように楽しんでいます。還暦過ぎて、擦り傷にならないコンディションでプレーを楽しめているのは、中町さんとのご縁の不思議で、望外のことです。これ以外に、他県チームとの交流機会が、本年は13回ありました。いずれも芝生の良好なコンディションのグラウンドです。メンバーの誰もが、かつては夢であった世界である、と思っています。

私事を申せば、昭和27年春に、はじめてサッカーボールというものに触れてから、サッカーが中・高の遊び時間の全てでした。就職してやっと本格的なサッカーでしたが、芝生でやれるのは年に1回あるかないかでした。年を重ねて段々に出番が無くなりましたが、プレーする場所をなんとか見つけて、今はようやく、生涯プレーヤーのお手本のような方にもお目にかかる機会があるようになりました。まさかこの年まで続けていようとは、以前にはとても考えられませんでした。（このパラグラフは削除しても結構で、長さ調整用です）

少し前までは関東四十雀大会の60雀交流が唯一の大会でした。今は、JFA主催の全国シニア（60歳以上）大会が平成11年からJビレッジ中心で開催されており、連続参加してます。また、厚労・文科省主催のねんりんピックには補助金の関係で、隔年参加しておりますが、別にもう1チーム作って毎年参加するようにしたいです。このほかに、関東各県が交互にグラウンドを確保して交流する、鍋島さん発案のG（Goodか、爺か？）リーグや、さらには関東60雀大会も、どうやら定着して来ました。

これら以外の交流も種々ありますが、清水サッカー協会主催の清水スーパーシニアサッカー大会に触れておきます。これは、平成15年プレ大会から始まった、唯一のチャンピオンシップ大会です。本年は16チーム参加で、予選リーグで昨年の覇者清水OBを屠って、準決勝に駒を進めましたが、湘南ペガサスにPK戦のサドンデスで敗退しました。もし決勝に進出しても、チームとしては体力が持たなかったかも知れません。本年は、西は神戸市から、東は千葉県までの参加でしたが、行く行くは全国規模の大会を目指してます。優勝は埼玉60雀で、まあ順当でした。埼玉は120名の60雀登録があり、また、清水は、今は静岡市の一地域ですが、地域で60雀5チームのリーグがあり、0 60プレーヤーがウィークデー2回は夜間練習し、全国・県・市各レベルに相当する60雀代表を有する層の厚さです。

現在、わが60雀メンバーは30名を超えますが、怪我などで調整中の方も多く、本年のねんりんピックには、当初は参加の意思表明をしましたが、参加可能が13名になり、各人の負担が大きく、怪我が懸念されたため、辞退しました。このような現状ですので、さらに輪を広げておきたいです。また、メンバーの年齢が毎年上昇しますので、とりあえずは、関東シニアの65歳超、清水SSの67歳超への参画（こちらは再来年から）を視野に入れようとしております。

以上